

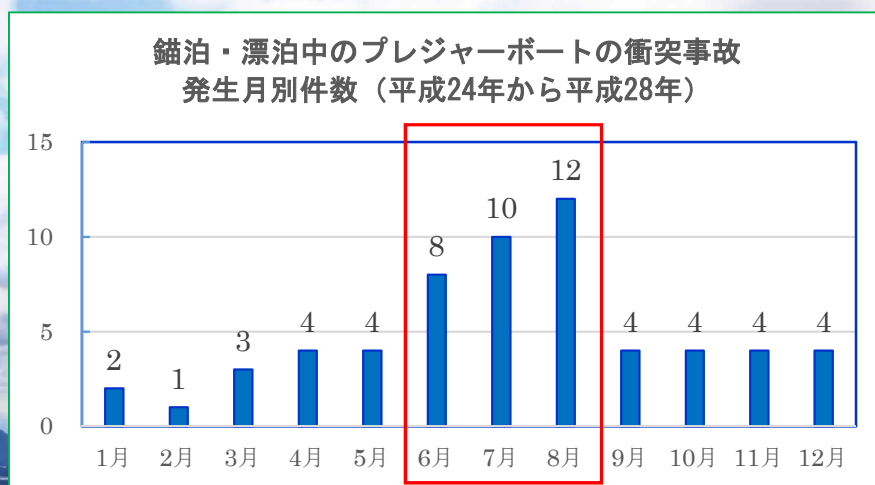
ボート釣りを安全に楽しむために

錨泊・漂泊中のプレジャーボートの衝突事故の状況

本州・四国・九州に囲まれた瀬戸内海は、古くから畿内と九州を結ぶ海上交通の要路であり、豊富な水産資源に恵まれた好漁場でもあります。

また、釣りをはじめとするマリレジャーも盛んで、日本小型船舶検査機構(JCI)の統計によれば、平成28年度、広島、山口、岡山、愛媛、香川、島根、鳥取の7県のプレジャーモーターボート^(※1)及びプレジャーヨット^(※2)の在籍船^(※3)は40,944隻に上ります。

一方、運輸安全委員会が、平成24年から平成28年に事故調査報告書を公表した船舶事故のうち、広島事務所が担当する区域(広島県、山口県東部、岡山県、愛媛県、香川県、島根県、鳥取県に接する水域)における錨泊・漂泊中のプレジャーボート^(※4)と他船との衝突事故は60件で、これを発生月別にみると、**半分の30件が6月から8月に発生している**ことがわかります。(下図参照)



また、この60件のうち24件の事故で合わせて36人の方が負傷していますが、重傷者6人を含む34人が錨泊・漂泊中のプレジャーボート側の乗船者でした。

こうした結果を踏まえ、今夏広島事務所では、プレジャーボートユーザーの皆さんが錨泊や漂泊をしながら釣りをする際、他船との衝突事故を防止するために気を付けていただきたいポイントなどを紹介します。



運輸安全委員会事務局広島事務所
平成29年7月

※1 プレジャーモーターボート レジャー用のモーターボート(釣船も含まれます。)
※2 プレジャーヨット エンジン付の帆船または沿海区域を超えて航行する帆船
※3 在籍船 JCIの船舶検査の対象となる小型船舶のうち、有効な船舶検査証書を有している船舶(受検せず船舶検査証書が無効となった船舶などは含まれません。)

船舶の状況

錨泊・漂泊中のプレジャーボートと他船との衝突事故60件に関連した船舶は123隻^(注1)で、その船種等の状況は次のとおりです。

航行船（61隻）の船種別	
漁船	27隻
プレジャーボート	25隻
遊漁船	4隻
旅客船	2隻
貨物船・作業船・水上オートバイ	各1隻

錨泊・漂泊中のプレジャーボート（62隻）の状況	
漂泊して釣り中	41隻
錨泊して釣り中	13隻
その他	2隻
不明	6隻

(注1：一件の事故に3隻以上の船舶が関与する場合があります。)

双方の見張りの状況等

事故に関連した船舶123隻について、事故前に相手船に気付いていたか否かを調べた結果、全体の約7割にあたる86隻(航行船 54隻、錨泊・漂泊中プレジャーボート 32隻)が相手船に気付いていませんでした。

航行船は相手船（錨泊・漂泊中のプレジャーボート）に気付いていたか	
気付いていなかった ^(注2)	54隻
気付いていた	4隻
不明	3隻

錨泊・漂泊中のプレジャーボートは相手船（航行船）に気付いていたか	
気付いていなかった ^(注2)	32隻
気付いていた	24隻
不明	6隻

(注2：衝突直前に気付いた場合も「気付いていなかった」に含んでいます。)

航行船の側で、相手船に気付いていなかった54隻の船種は以下のとおりです。

- ・ 漁船 27隻
- ・ プレジャーボート 22隻
- ・ 遊漁船 3隻
- ・ 貨物船、作業船 各1隻



事故調査報告書によれば、これらの航行船が錨泊・漂泊中のプレジャーボートに気付いていなかった理由を大別すると次のとおりです。

- ・ 他船はいないと思い、他の事をしながら航行した 21隻
- ・ 周囲の他船等に気をとられていた 12隻
- ・ 前路に他船はいないと思い、船首方の死角を補う見張りをしていなかった 11隻
- ・ その他 2隻
- ・ 不明 8隻

一方、錨泊・漂流中のプレジャーボートも半分以上の32隻が、航行船に気付いていませんでした。事故調査報告書によれば、この32隻が航行船に気付いていなかった理由は、次のとおりです。

- | | |
|-----------|-----|
| ・ 釣りをしていた | 26隻 |
| ・ 雑談等していた | 5隻 |
| ・ 不明 | 1隻 |



錨泊・漂流中のプレジャーボートにおいては、航行船に気付いていたにもかかわらず結果的に衝突に至った船も24隻に上ります。

事故調査報告書によれば、相手船に気付いていたにもかかわらず衝突してしまった理由は次のとおりです。

- | | |
|---|-----|
| ・ 相手船が避けてくれると思った | 15隻 |
| ・ 気付いた時点で大声を出したり手を振るなどしたが、相手船に気付いてもらえなかった | 9隻 |

事例 1

A船(プレジャーボート 5トン未満)は、船長Aが1人で乗り組み、同乗者を乗せて漂流して釣りの準備中、後方 2,000m付近を航行中のB船(漁船 1.3トン)を視認したが、B船が自船には向いていないように見えたことと、これまで航行中の船が漂流中の自船を避けてくれていたので、**他船が近づいても避けてくれると思って釣りの準備を続けたところ、同乗者の声によって後方至近のB船に気づき、衝突直前に同乗者とともに海に飛び込んだ。**

B船(漁船)は船長が1人で乗り組み、15ノットの速力で漁場を移動中、**船長Bが、前方に他船はいない**と思って**漁具の準備を始め、その後至近にA船を認め機関を中立としたが、A船と衝突した。**

(船長Aと同乗者が軽傷)

事例 2

A船(プレジャーボート 2.7トン)は、船長Aが1人で乗り組み、家族3人を乗せ釣り場に向けて航行中、**船長AがGPSプロッターの画面を見ていてB船(プレジャーボート 1.1トン)に気付かず進行し、衝突した。**

B船は船長Bが1人で乗り組み、同乗者2人を乗せ錨泊して釣りをしていたが、釣り場を移動するため錨索を巻き上げ中、**同乗者の1人が左舷後方約50mに接近するA船に気づき船長Bに知らせた。**船長Bはなお接近するA船に衝突の危険を感じ、同乗者2人を促して海に飛び込んだ(同乗者1名は衝突後に海に飛び込んだ)。

(負傷者なし)

事例 3

A船(漁船 13トン)は、船長A及び甲板員2人が乗り組み航行中、**船首甲板に設置されたクレーンのブームや操縦席前の旋回窓によって死角が生じていたにもかかわらず、船長Aが船首方に他船はいない**と思って航行を続け、B船(プレジャーボート 2トン)に**気付かず衝突した。**

B船は船長Bが1人で乗り組み、同乗者を乗せ錨泊して釣りをしていたところ、**船長Bが右舷船首方約500mに接近するA船を初認したが、釣果を聞きに来るのだと思い釣りを続けたところ、約300mに接近しても速力を落とさないことから汽笛を鳴らしたが、約30mまで近づいてきたので危険を感じて同乗者とともにしゃがんだり手すりをつかむなどした直後に衝突した。**

(船長Bと同乗者が軽傷)

ボート釣りを安全に楽しむために（まとめ）

錨泊や漂流をしてボート釣りを楽しむ際は、次のことに注意して衝突事故から身を守りましょう！

- ・ 周囲の状況を定期的に確認し、他船の動向に注意しましょう。
- ・ 「こちらは止まって釣りをしているのだから避けてくれるだろう。」は、航行船があなたの船に気付いていることが前提です。しかし、2ページの集計結果や3ページの事例に示したとおり、航行船が必ずしも見張りを適切に行っているとは限りません。
あなたの船に気付いていなければ、相手船は避けてくれません。
- ・ 錨泊中は法定の形象物や灯火を表示し、また“近づいてくる船を見たら、まずは音響信号を使用する”など、早めの行動を心がけましょう。
- ・ 漂流している場合は、自らも避航が必要な立場であることを自覚しましょう。
- ・ レーダーリフレクターや携帯式簡易エアホーンなどは、衝突事故の防止に有効とされています。安全のため積極的な使用をお勧めします。



地図上で事故を検索し、詳しい事故調査報告書を読むことが出来ます。ぜひご活用ください。



～地図から探せる事故とリスクと安全情報～

<http://jtsb.mlit.go.jp/hazardmap/>



「モバイル版」もできました。こちらも、併せてご活用ください。

<http://jtsb.mlit.go.jp/hazardmap/mobile/index.html>



〒734-0011 広島市南区宇品海岸 3-10-17

広島港湾合同庁舎 4階 TEL 082 (251) 4603